



## つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 305号 2011.3.22 発行 社会政策研究所

読売新聞で取り上げられている「ぴーす」は、大阪手をつなぐ育成会理事の小田多佳子さんが代表を務めている NPO 法人。12 月の大阪育成会支部連プラスでも取り上げた防災システムやグッズが注目されます。【kobi】

### 蓮舫氏、サマータイム導入検討...電力不足に備え

読売新聞 2011 年 3 月 22 日

節電啓発を担当する蓮舫行政刷新相は 22 日午前の閣議後の記者会見で、計画停電対象地域の夏場の電力不足に備えるため、サマータイム（夏時間）の導入などを検討する考えを表明した。

蓮舫氏は、「サマータイム、フレックスタイム（時差勤務）に誘導していく税制や電気料金のどういう組み合わせが考えられるか、（東日本巨大地震を）抜本的に見直すきっかけとしたい」と述べた。

東京電力管内の夏場の電力需要に関しては、「今の 3000 万キロ・ワットという値ではない。去年の実績は 7 月で 5000 万、6000 万キロ・ワットで、今より相当増える」と指摘した。

### 震災時...介護と医療どうする 薬や病歴など一覧表に

読売新聞 2011 年 3 月 22 日

NPO 法人「ぴーす」が販売している「防災ワッペン」多数の被災者を出している東日本巨大地震。中でも、介護や医療が必要な高齢者は、「災害弱者」となりやすい。少しでも被害を少なくするための、日頃の備えや心構えをまとめた。

#### 情報まとめる

避難所では、日頃飲んでいる薬がなくなって困っている人が多い。

持病のある人の備えとして、ケアーズ白十字訪問看護ステーション（東京都新宿区）所長の秋山正子さんは「飲んでいる薬のリストや病歴、かかりつけ医の連絡先などの情報を 1 枚の紙にまとめ、非常時に持ち出せるようにしておく。自分の名前や住所のほか、家族の連絡先も忘れずに」とアドバイスする。

高齢者は、介護保険を使っている人も多いので、担当のケアマネジャーの連絡先も記しておく。認知症の人場合は、「夕方になると徘徊する傾向がある」など、知っておいた方がいい情報も書いておく。自分で氏名や生年月日を言えないこともあるので、保険証のコピーや顔写真も用意しておくといよい。

そのほか、おむつ、電動の医療器具のバッテリーや充電器、インスリン注射の予備一式



なども、必要に応じてそろえておきたい。

### 周囲と連携を

震災時は、家族と離れ離れとなり、孤立してしまう恐れがある。

家族と連絡が取れなくなる事態も想定して、日頃から、隣近所の人に状況を伝え、非常時の手助けを頼んでおくことが重要だ。特に認知症の人はいつもと違った環境に置かれると、不安が増し、パニック状態になりがちだ。「普段から、近隣住民によく理解しておいてもらい、いざという時に駆けつけてくれる関係を作っておく必要がある」と、「生活とりハビリ研究所」代表の三好春樹さんは言う。

### 防災ワッペンに連絡先

地域住民の協力は、介護施設の場合も欠かせない。

松山市のグループホーム「こんまいあんき」(定員9人)では4年前から、町内会と共同で防災避難訓練を行っている。地域住民やボランティア約100人が参加して、災害時の連絡方法や避難経路を確認する。

「スタッフだけでは利用者全員を助け出せない。認知症の人は強引に引っ張ったりするとおびえてしまうので、できるだけ落ち着いて、『一緒に行ってくれる?』などと誘うようにすると順調にいくことが多い。そうした介助のポイントも、訓練の中で伝えている」と、運営母体「託老所あんき」代表の中矢暁美さんは話す。

認知症の人は、外から見ただけではわかりづらく、自分から支援を求めることができない場合もある。NPO法人「ぴーす」(大阪府、(電)072・250・9060)は、「いざという時援護が必要です」と書かれた災害時用ワッペン(300円)を販売している。裏面には、名前、連絡先、援護が必要な理由を書く欄があり、家族とはぐれた場合にも役立つ。こうしたものを備えておくと安心だ。

### 落下物対策も

要介護者のいる家庭では、屋内の安全対策も大切だ。ベッド周辺には落下の危険があるものを置かない。出入り口周辺には倒れそうな家具を置かず、逃げ道が確保できるように。つえや車いすは置き場所を決め、家具などの下敷きにならないように注意する。戸建て住宅なら、寝室や居間は避難しやすい1階にしたい。(林真奈美、飯田祐子)

### 【まとめておきたい情報】

- ・氏名
  - ・生年月日
  - ・血液型
  - ・住所
  - ・家族の連絡先
  - ・飲んでいる薬の種類
  - ・持病など
  - ・かかりつけ医
  - ・ケアマネジャーなど関係機関
  - ・医療・介護で特に注意すべき点
- 人工呼吸器などの利用者は提供会社も  
保険証のコピー、顔写真があれば本人確認に役立つ

### 震災時Q & A <介護編>

東日本巨大地震に関連して、知っておきたい社会保障関係の情報を、今週からQ & A方式でお伝えする。初回は、介護が必要だったり、持病があったりする高齢者向けの留意点を、専門家の助言をもとに紹介する。

#### Q 避難生活をする認知症の人への注意点は。

A 慣れない環境に置かれると症状が悪化しやすい。避難所の一角や別室に高齢者を集め、お茶を飲んだり、歌や体操を楽しんだりする「デイサービス」的な取り組みに効果が

期待できる。専門の職員がいなくても、顔なじみの関係ができていくと不安が軽減される。

**Q 体調管理で気をつけることは？**

A 水分不足や便秘は認知症の症状を悪化させる。寒さを自分の口で訴えられない人もいるので、周囲の配慮が欠かせない。家族は、認知症の人の介護をしていることを周囲にわかってもらえるように、「認知症介護中」などと書いた紙を首からぶら下げることも一案だ。

**Q 介助してくれる人が見つからない。**

A ホームヘルパー 2 級の資格を取得している人は毎年増えている。周囲に声をかけてみて。

**Q ほかに？**

A 見落としがちなのが、男性高齢者のメンタルケア。女性に比べ、男性は内にこもりがち。過去の震災でも、仮設住宅に移ってからアルコール中毒になったり、孤独死したりする男性が多かった。周囲の人は目配りを。

### 震災時 Q & A <医療編>

**Q 糖尿病の薬がなくなりそう。どうしたらいい？**

A 糖尿病の 95% を占める 2 型の場合、インスリン注射が数日できなくても、すぐ命にかかわるような問題にはならないので心配しすぎないこと。日本糖尿病協会が専用電話 (0120・151・721) で相談に応じている。

**Q 糖尿病で治療中の人が、被災地での生活で特に気をつけた方がいい点は？**

A 後片づけなどの作業は控えた方がよい。合併症で足の感覚が鈍くなっており、ケガをしても気づきにくい。白血球の働きが悪く感染を防ぐ力が弱まっているので、傷口から感染が広がりやすいためだ。

**Q がん治療中の人は？**

A 抗がん剤や免疫抑制剤を使っている人も、治療で感染に弱くなっているため、被災地の片付けなどはしないように。

**Q 内服薬の抗がん剤を処方されているが、飲み続けても大丈夫？**

A 主治医などと連絡が取れない状況では、感染や急な副作用に対応できないこともあり、避難所などで飲むのは控えた方がよい。全国の 5 患者会で作る「J CAN」が、ホームページ (<http://jcan.e-ryouiku.net/>) で、「大抵のがんは、2～3 週間ほど服薬できなくても病状に大きな影響はない」といった専門医の助言や、患者の受け入れ可能な病院などの情報を掲載している。

**Q ほかに注意点は？**

A 高齢者はエコノミークラス症候群になりやすい。心筋梗塞や脳梗塞を起こして服薬治療中など、持病がある人は特に注意が必要で、1 時間に 1 回は足を動かすようにしたい。また、体を温めるには衣類の上から新聞紙を巻き、その上にラップを巻くと体温が奪われにくい。ペットボトルなどにお風呂の温度程度のお湯を入れ、わきの下や股の付け根、首の回りにあてるのも効果的だ。

### 自閉症の被災者 ケアの手引き

NHK ニュース 2011 年 3 月 22 日

震災で多くの人が避難生活を送っているなか、自分の意思を伝えることが難しい自閉症の人は避難所などで孤立するおそれがあるとして、日本自閉症協会では、被災した自閉症の人と、その家族などに向けて、避難所での注意や心のケアをまとめたハンドブックを公開しています。

自閉症は脳の障害が原因とされ、周りとの意思の疎通が取れなかったり、とっぴな行動をとったりすることがあります。国内に自閉症の人はおよそ 100 万人いるとみられています。

すが、家族や福祉関係者で作る日本自閉症協会によりますと、過去の大災害では、自閉症の人やその家族は避難所で共同生活をうまく送ることができず、中には壊れた自宅や車の中での生活を余儀なくされる場合があったということです。そのため、協会では、今回の大震災で被災した自閉症の人たちを支援しようと、本人と家族や、支援する人たちのためのハンドブックを、インターネットで公開しました。このうち、自閉症の人と家族に向けたハンドブックでは、子どもに、避難所の生活には自宅とは違うルールがあり、食べ慣れたものが手に入らないことなどをよく教えることや、不安で興奮している子どもには、災害から逃れられたことを褒めてあげることや、一緒に布団に入って落ち着かせたりすることなどが書かれています。また、支援者に向けたハンドブックでは、避難所で自閉症の人が不安を感じないように仕切りを置くことや、入浴の際には付き添いをするなどが書かれています。日本自閉症協会の石井哲夫会長は、「自閉症の人や家族は、災害が起きたとき特に厳しい状況に置かれる。症状を理解したうえで、周囲が協力して支援することが必要だ」と話しています。ハンドブックが公開されているインターネットのサイトのアドレスは、<http://www.autism.or.jp/cgi-bin/saigai> です。

## 20 - 30 キロ圏の患者らの搬送ほぼ完了- 福島第一原発事故で細川厚労相

キャリアブレイン 2011年3月22日

細川律夫厚生労働相は3月22日の閣議後の記者会見で、屋内退避指示が出ている福島第1原子力発電所から20 - 30キロ圏内の入院患者や介護施設入居者の県外搬送について、同日中に完了するとの見通しを示した。

福島県外への搬送は、病院の入院患者のほか、特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護施設入居者が対象。同省が関東甲信越と山形の11都県に協力を依頼し、11都県の病院や介護施設への搬送を進めてきた。

同省の担当者によると、21日までに入院患者約700人、介護施設から約920人の搬送が終了。22日に介護施設から60人ほどの搬送を行い、同省がマッチングを行った20 - 30キロ圏内の対象者すべての搬送を終える見込み。

ただし、家族の希望などにより、約40人の患者は現地の病院に残っている。

## 大阪府 府営住宅に被災者受け入れ

MBS ニュース 2011年3月22日

東日本大震災による被災者を受け入れるため大阪府は、22日から公営住宅への入居受け付けを始めました。

午前9時から大阪・南港の咲洲庁舎で始まった受付には、震災や原発事故で避難を余儀なくされた人たちが次々に訪れています。

大阪府は府営住宅およそ450戸の無償提供を決め、今後、2,000戸まで増やす方針です。

「きのうやっと大阪に着いて、お風呂に入ったのは12日ぶり。半年以上はこちらに居続けるしかないんじゃないかなー」(宮城・石巻市から来た男性)「こういう機会があるのはありがたいなと思って、お世話になるには」(福島県から来た女性)「一時避難という形の利用でも構いませんので、とにかく問い合わせをして頂きたく思います。大阪府一丸となって被災者の皆さんをお支えしたいと思いますから」(大阪府 橋下徹知事)

府では生活必需品の提供や大阪までの移動手段、福祉や教育のサポートにも応じるといふことです。

一方、滋賀県ではすでに被災地から避難する人の受け入れを行っています。

避難者は主に福島県からで20日現在で、24世帯、90人が避難生活を送っています。

東近江市にある滋賀県消防学校には、今月18日から渡部さん一家ら3世帯14人が避

難生活を送っています。

渡部さんの自宅は、福島第1原発からおよそ45キロ離れた福島県いわき市にあり屋内退避の区域外ですが、幼い子どもがいることから県外への避難を決めたということです。

「原発が怖くてそれだけで逃げてきたんで、それがないだけでここは安心。地震もほとんどいっつか感じないですよね」(避難生活を送る渡部ゆきこさん)

現在は学校内の宿泊所で寝泊まりし、食料は地元の提供を受けながら自炊生活を送っていますが、長期的な滞在を希望していて今後、県営住宅などに移り住む予定です。

【大阪府受付窓口】(06)6210-9779

## 障がい福祉サービス事業者に対する改善勧告について

大阪府発表 2011年3月22日

社会福祉法人あかつき福祉会(箕面市)が運営するケアホームにおいて、無資格者が医行為(介護職員が利用者にインスリン注射)を行っているとの通告を受け、事実確認及び障害者自立支援法第48条の規定に基づく監査を行った結果、ケアホームを含む4事業所において、4名の利用者に対し、無資格者が医行為(インスリン注射、血糖値測定(採血)、経管栄養(胃ろう))を反復継続して行っていた事実が確認されたため、平成23年3月22日付けで同法第49条に基づき勧告を行いましたのでお知らせします。

### 【法人名】

- 社会福祉法人 あかつき福祉会(箕面市瀬川三丁目3番21号)

理事長 庄司 修三郎

勧告の対象となった事業所

- (1)箕面市立あかつき園(就労継続支援B型・自立訓練(生活訓練))
- (2)箕面市立ワークセンターささゆり(生活介護)
- (3)箕面市立障害者福祉センターささゆり園(生活介護)
- (4)第2つながりの家(ケアホーム・グループホーム)

### 【監査結果(概要)】

- 府の4回にわたる立ち入り調査(平成22年9月17日~10月27日)及び法人による自主調査(平成23年2月10日報告)において、平成15年1月から平成22年9月までの期間、介護職員によるインスリン注射、血糖値測定(採血)、経管栄養(胃ろう)の医行為を行っていた事実を確認した。医行為の対象となった実利用人数は4事業所で4名、確認できた件数は延べ6,214件。(現在、介護職員による医行為は行われていない。)

- インスリン注射については、利用者本人が行うことを前提としていたが、「利用者が不安定な状態になった場合に、自己注射よりも介護職員が行う方が安全かつ確実」と法人が安易に判断し、独自にマニュアルを作成、職員研修を行った上で実施していた。

- なお、医行為を行うには、医師又は看護師を配置する必要があり、当該ケアホーム入居者については、現人員体制では医行為を必要とする利用者へのサービス提供を継続し難いことから、法人が本人及び家族の了解を得たうえで退居いただいた。

### 【勧告事項(概要)】

〔各事業共通〕

障害者自立支援法第42条第3項に規定する義務の履行が確保されるよう、社会福祉法人あかつき福祉会として、次の取り組みを実施する業務管理体制(内部統制システム)を整備すること。

- (1) 法令等遵守に係る基本方針を定め組織全体に周知すること。
- (2) 法令等遵守方針に則り、内部規程等を策定して組織内に周知すること。
- (3) 法令等遵守の状況を的確に分析し、問題点等の検証・改善する体制を整備すること。

〔生活介護〕

看護師の配置について、人員に関する基準を満たしているが、常に利用者の健康の状況に注意するとともに、健康保持のための適切な措置を講じる観点から見直しして、必要数を配置すること。

〔ケアホーム、グループホーム〕

利用者の身体及び精神の状況に応じた必要な支援を行うことができるよう、他の保健医療サービス又は障がい福祉サービスを提供する者との連携その他の適切な支援体制を確保すること。

【参考】

○ 立入調査及び法人の自主調査で確認できた医行為

〔箕面市の指定管理事業〕

(1)箕面市立あかつき園（就労継続支援 B 型：定員 10 名・自立訓練（生活訓練）：定員 10 名）

・血糖値測定(採血)：2 名 2,727 件（実施：平成 15 年 6 月～平成 22 年 3 月）

(2)箕面市立ワークセンターささゆり（生活介護：定員 60 名）

・血糖値測定(採血)：2 名 155 件（実施：平成 22 年 4 月～平成 22 年 7 月）

(3)箕面市立障害者福祉センターささゆり園（生活介護：定員 20 名）

・経管栄養(胃ろう)：2 名 115 件（実施：平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月）

〔法人独自事業〕

(4)第 2 つながりの家（ケアホーム・グループホーム：定員 32 名）

・経管栄養(胃ろう)：1 名 699 件（実施：平成 16 年 4 月～平成 18 年 5 月）

・インスリン注射：1 名 2,518 件（実施：平成 15 年 1 月～平成 22 年 9 月）

○ 「障害者自立支援法第 42 条第 3 項に規定する義務」とは、指定事業者等は、障がい者等の人格を尊重するとともに、この法律又はこの法律に基づく命令を遵守し、障がい者等のため忠実にその職務を遂行しなければならない。

○ 「障害者自立支援法第 49 条に基づく勧告」とは、都道府県知事は、指定障害福祉サービス事業者が、当該指定に係るサービス事業所の従業者の知識若しくは技能若しくは人員について厚生労働省令で定める基準に適合しておらず、又は厚生労働省令で定める指定障害福祉サービスの事業の設備及び運営に関する基準に従って適正な指定障害福祉サービスの事業の運営をしていないと認めるときは、当該指定障害福祉サービス事業者に対し、期限を定めて、厚生労働省令で定める基準を遵守し、又は厚生労働省令で定める指定障害福祉サービスの事業の設備及び運営に関する基準を遵守すべきことを勧告することができる。

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行